
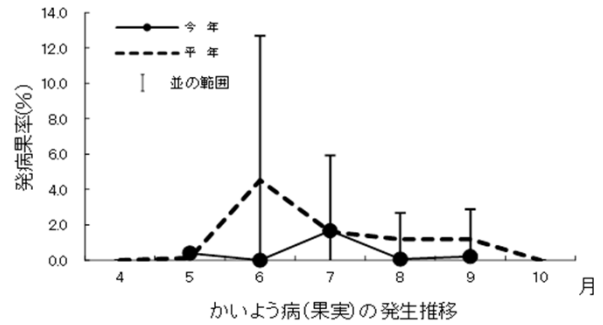
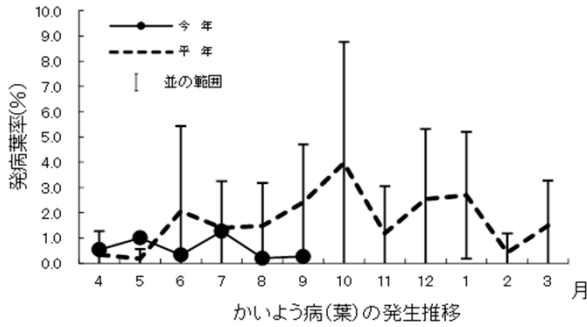


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病果率の平年の発生推移から、9月と同程度の発生量と考えられる。		

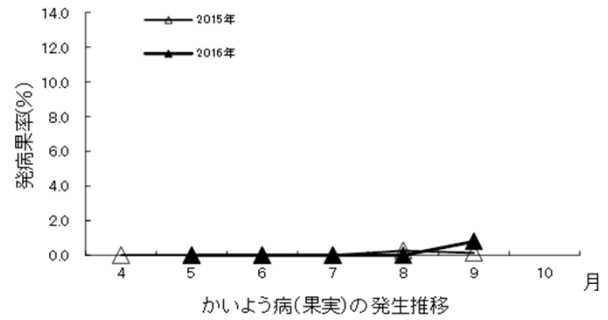
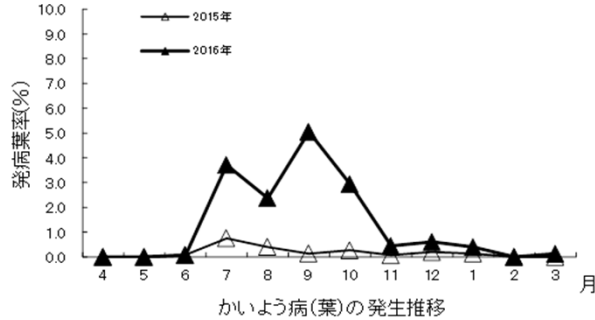
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、発病葉率は0.3%（前年5.1%、平年2.4%）と平年並であった。
- ・ 発病果率は0.2%（前年0.8%、平年1.2%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）




防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ ミカンハモグリガの食害痕からも感染するので、防除を徹底する。



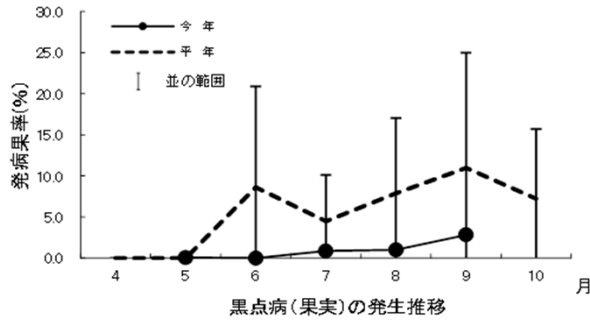
ハモグリガ食害痕から菌が侵入し発病した葉

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	発病果率の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

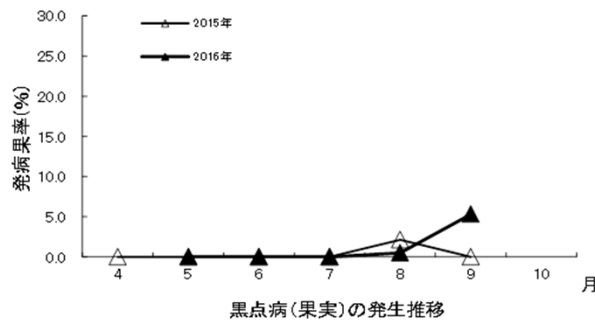
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、発病果率は2.8%（前年5.3%、平年11.0%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

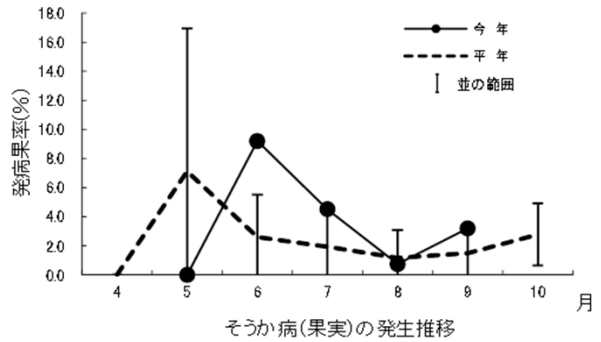
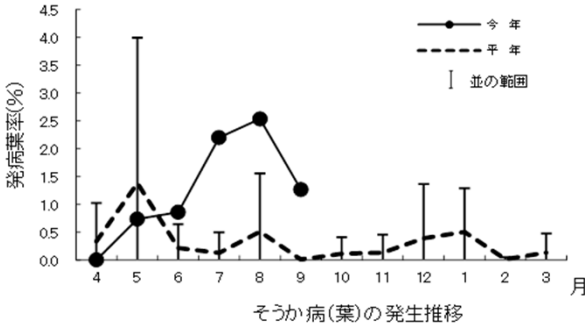
- ・ 周辺の防風樹も含めて、枯れ枝は丁寧にせん定し処分する。
- ・ 園内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
9月の発生量（現況）	やや多		
10月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発生果率の平年の発生推移から、9月と同程度の発生量と考えられる。		

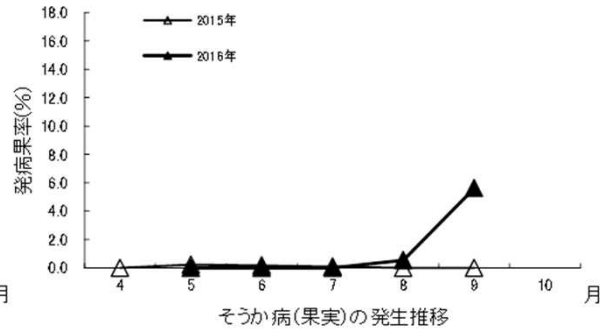
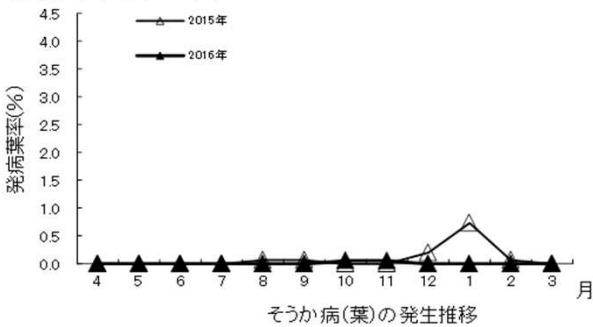
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、発病葉率は1.3%（前年0%、平年0.1%以下）と平年より高かった。
- ・ 発病果率は3.2%（前年5.6%、平年1.5%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）




防除のポイント

- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。



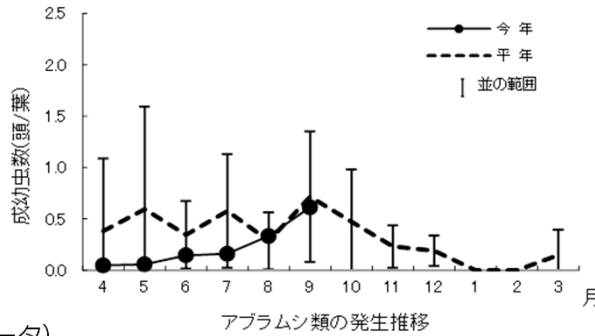
葉の被害

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

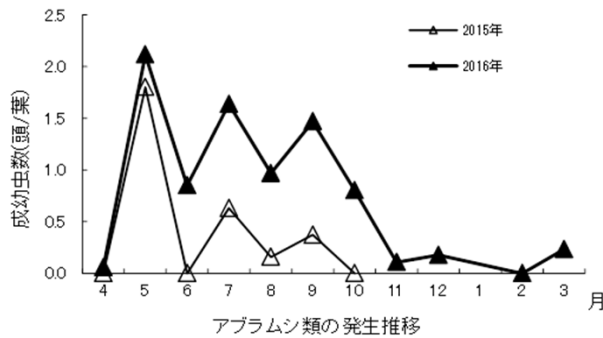
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.6頭（前年1.5頭、平年0.7頭）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。

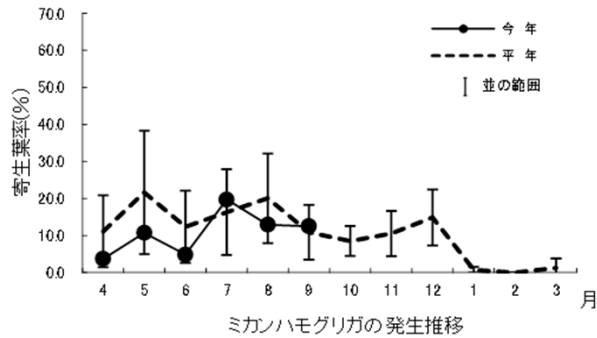


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

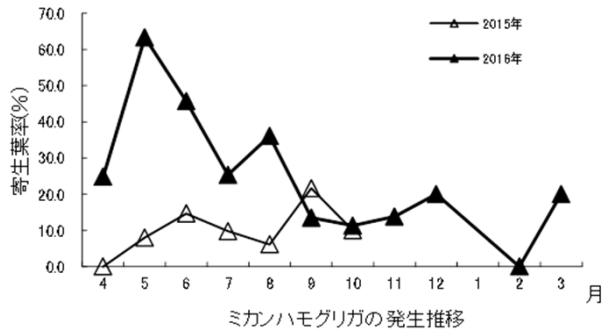
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、寄生葉率は12.5%（前年13.5%、平年10.9%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

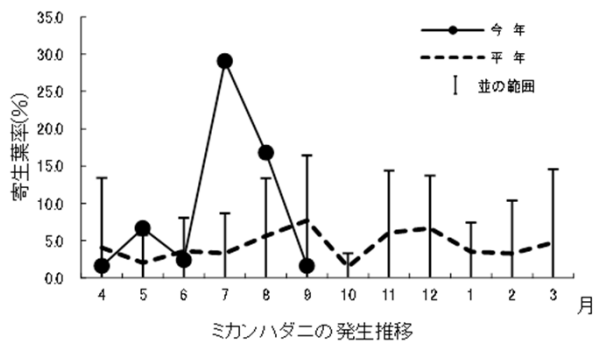
- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
9月の発生量（現況）	並		
10月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、9月より発生量は減少すると考えられる。		

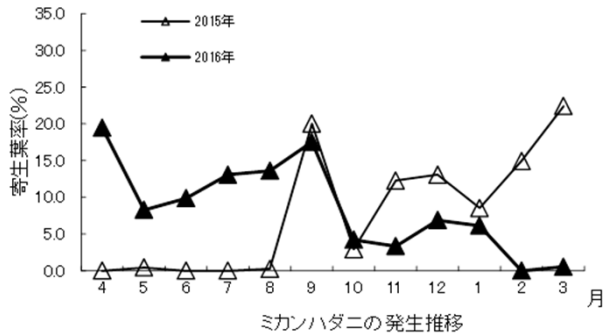
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 9月下旬の調査の結果、寄生葉率は1.6%（前年17.5%、平年7.7%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状